

## 令和7年度 第3回学園運営協議会【議事録】

### ○開催日時

令和7年8月25日（月）14:30～16:00

### ○開催場所

大島学園 多目的ホール

### ○出席者

学園運営協議会佐藤会長、福岡教育大学教職大学院坂井教授、校長、教頭、教職員全員、児童生徒（5～9年生）、地域オブザーバー（浜辺ラボ 平川氏、大島村商店 河辺氏、宗像経済新聞 原氏、福祉協議会 福崎氏、他）、区長、PTA会長、教育委員会【地域教育連携室:南室長、堤参事 教育総務課:小島指導主事】

### ○参観者

玄海東小学校様【10名】、日の里学園コーディネーター 北岡様、株式会社ミエタ 島川様

## 1. 開会行事

### ○開会挨拶【山崎教頭】

### ○報告

【草野 島づくり協議会会長】

- ・8/7 セタ祭りに児童30名、ジュニアMCが参加。大変盛り上がった。
- ・8/20 稲作チャレンジを5年生中心に実施。今後、収穫米は給食へ活用予定。

【佐藤 PTA 会長】

- ・夏休み中に「大島の歴史・文化を調べる」宿題をPTAより出題。
- ・優秀作品は10月～11月の「こども大学」で発表予定。
- ・セタ祭りではP連10校で出店。約5万円の売上を学校へ寄付（子どもたちの活動支援に使用予定）。

【古賀大也 児童生徒会】

- ・地域とのつながりをテーマに「児童生徒会新聞『結まーる』」を作成・配布。
- ・本日配布済み。来場者に閲覧を依頼。

### ○会長挨拶【佐藤会長】

- ・自然災害（崖崩れ等）の被害と地域の連携の重要性に触れる。
- ・「道路下の川が存在」など、地形と安全への配慮の必要性を共有。
- ・地域全体で防災・安全に取り組む姿勢を強調。

### ○校長挨拶【阿部校長】

- ・7月豪雨による学校被害の報告（校舎浸水、天井崩落、復旧工事1000万円規模）。
- ・子どもたちは元気に夏を過ごし、本日を迎えたことへの感謝。
- ・生徒会からの提案により、地域と児童生徒が主体となった協議会が実現。
- ・「地域と家庭と学校をつなぐ」スローガンの実現に向けた取り組みを紹介。

### ○日程・進行説明【山崎教頭】

- ・A～Dの4グループに分かれてグループ協議を実施。
- ・各グループに児童生徒会役員がファシリテーターとして参加。
- ・最後に有識者から総評予定、16時終了予定。

### ○協議趣旨と経緯説明【濱尾主幹教諭】

- ・児童生徒会主導でテーマ設定から提案まで主体的に実施。
- ・過去3年間の取り組みの進化を解説（受動→能動へ）。
- ・地域と子どもが「対等な話し合い」を行うことの意義を強調。

## 2. 児童生徒会 提案発表

- ・今年度スローガン「結（ゆい）」の意味説明

「地域・人・世界を結ぶ」「あなたと私（You and I）」を掛け合わせたテーマ。

- ・新聞制作、地域活動への参加報告。
- ・地域と連携できる今後の活動（運動会、文化行事など）を提案。

・キャラクター「あまにゃん」の活用についても協議予定。

### 3. 熟議

- ・児童生徒会が主導となり、地域との連携行事などについて各グループで議論。
- ・地域との関わりを深める具体的な活動を検討。

【9年 佐藤来飛 児童生徒会会長】

僕たちAグループは、「運動会」にテーマを絞って話し合いました。まず、運動会にもっと地域の人たちに参加してほしいと思ったのですが、なかなか来られない理由があるんじゃないかと考えました。そこで課題として挙げたのは、運動場までの距離が遠いことや、そもそも運動会に来る目的が少ないということです。たとえば、自分の孫が出ていれば来やすいけれど、そうでなければわざわざ来るのは大変ですし、目的がはっきりしないと参加しづらいですね。なので、地域の方々が少しでも「行ってみようかな」と思えるような目的を増やすことが大事だと思いました。特に、高齢者の方が参加しやすくなるような工夫が必要です。

【7年 佐藤ゆめ 児童生徒会】

お年寄りの方が無理なく参加できるような取り組みとしては、たとえば会場の案内をわかりやすくしたり、席までスタッフが案内したりすることが考えられます。また、足の悪い方でもできるように、ラジオ体操をゆっくり行う時間を設けたり、観覧席にはペットボトルではなく、自分たちで開けやすいタイプのお茶を用意したりするなどの配慮も良いと思います。さらに、子どもたちから笑顔で声をかけるなど、温かい雰囲気づくりも大切です。おうちの人たちが「来てよかった」と思えるような、そんな運動会にしたいと思いました。

【8年 草野かなで 児童生徒会】

Bグループでは、全部で7つの意見が出ました。

1つ目は「魚びらき」についてです。今年は中学部も参加するので、それをきっかけに、各家庭の文化や背景を共有する機会になるかもしれないという意見が出ました。2つ目は、「運動会」での取り組みです。地域の方と一緒に「大島体操」を行い、その準備や代表者の調整をするという案が出ました。3つ目は、「大島みあれ祭」について子どもたちが紹介する日を設けるという案です。「あまにゃん」が説明してくれるデザインにして、知らない人にもわかりやすいような工夫をすることも提案されました。また、みあれ祭では、甘夏ゼリーを販売した実績があり、今年も販売するかどうか検討しようという意見も出ました。4つ目は、あまにゃんの活用方法についてです。もっと多くの人にあまにゃんを知ってもらうために、ターミナルにポスターを貼るという案がありました。観光客がよくターミナルのトイレを使うことから、トイレにもわかりやすい案内を掲示するのが良いという意見もありました。このような活動を通して、地域とのつながりを大事にしていきたいと思いました。5つ目「敬老会」は大島ならではの取組なのでこのまま続けたいという意見が出ました。6つ目は、「秋祭り」についてです。現在「秋まつり」には学校が関わっていませんが、秋祭りなどの地域行事にも学校が積極的に関わっていったらいいという話が出ました。7つ目は、「駅伝」について。昔は「潮風マラソン」があり、誰でも参加できる大会だったそうです。今の駅伝も、もっとたくさんの人が参加できるようにしていきたいという意見が出ました。

【7年 福崎義也 児童生徒会】

Cグループでは、「全島運動会」についてと、「あまにゃん」の活用方法について話し合いました。まずは、全島運動会について発表します。僕たちのグループでは、大島全体で「大島体操」を地域の人たちと一緒に取り組むことを提案しました。そうすることで、地域との絆が深まり、島全体の一体感が生まれると考えました。また、大島体操自体の知名度アップにもつながると思います。地域の人と一緒にできる競技としては、「リレー」が挙げられました。リレーは世代を超えて楽しめるので、地域交流の場としてふさわしいのではないかと思います。さらに、もっと地域の人とのつながりを深めるために、町内ごとにグループを作ったり、準備段階から協力し合える仕組みがあるといいという意見も出ました。また、「大島体操」を2人組で行う形式にすることで、地域の人同士や親子での参加が促され、より親しみやすくなるのではないかと考えました。まずは町内の方々と協力し、輪を広げていけたらと思います。

#### 【8年 古賀大也 児童生徒会副会長】

次に、「あまにゃん」の活用方法についてです。あまにゃんを使った商品づくりを行い、「あまにゃん＝大島学園」と認知してもらえよう、島内外の人にアピールしていくという案が出ました。島内のさまざまな場所にあまにゃんを配置し、QRコードを設置することで、あまにゃんの紹介や想いが伝わるようにするというアイデアもあります。また、あまにゃんの設定（たとえば、何歳なのか、どんなふうに生まれたのかなど）を明確にして、より親しみやすいキャラクターにしていきたいという意見も出ました。さらに、LINEスタンプを作って発信することや、フェリーに乗る観光客にうちわを配布し、QRコードであまにゃんや大島の情報を紹介するアイデアも出ました。「さつき会」の方からは、あまにゃんのクッキーをお土産として販売することで、認知度アップにつなげようという提案もありました。また、全島運動会場であまにゃんを紹介すれば、地域内外に向けた良いPRにもなり、大島の魅力を広く発信できるのではないかと意見も出ました。以上が、Cグループの発表です。

#### 【9年 中村太一 児童生徒会】

Dグループです。運動会では地域の方と生徒と一緒に活動することで、もっとつながりが生まれると思いました。たとえば、地域の方が台車に乗るなど工夫して競技に参加することも考えられます。また、行事に参加したくても、仕事などでなかなか出られない人もいると思うので、スタート時間や役割分担をあらかじめ決めておくと、参加しやすくなるのではないかと感じました。役割が決まっていることで、お互いに安心して参加できるようになると思います。子どもたちが「地域の一員として何かしたい」「地域を支えたい」と思えるようなきっかけになるよう、行事の工夫をしていきたいです。

#### 【7年 丸井結月 児童生徒会】

地域の方々には、子どもたちの活動をあたたかく応援してもらえと思っています。そういう存在があることで、子どもたちも励まされ、自信を持って活動できるようになると思いました。また、地域の方と関わることで、大島の歴史や、普段はなかなか知ることができない場所についても学ぶことができるのが魅力だと感じました。

#### 【佐藤会長】

たくさんの意見をありがとうございました。もしこの中で、さらに深めていきたいと感じたものがあれば、地域の大人の方々の経験をもとに、ご意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。また、ご存知ない方もいらっしゃるかもしれませんが、大島には島内にある仏様を巡る行事があります。これは2日間かけて歩くもので、前半だけでも16キロ以上の行程になります。こうした地域行事についても、もっと多くの人に知ってもらえるよう、設定や紹介の工夫ができたらと思っています。ここでレジュメの時間に戻しまして、坂井教授からまとめをお願いしたいと思います。

#### 【坂井教授】

5月に続き今回も勉強会に参加させていただきました。各グループの発表から、生徒の皆さんの熱意や準備の様子が伝わり、特に表現力の育成がしっかり進んでいることに感動しました。討議のまとめやプレゼンでは、学びを自分たちの言葉で表現する力が育っていると感じました。大雨による被害の中でも、防災教育で培った知識や行動力が活かされたのではないかと思います。避難行動をとったり、周囲に声をかけたりと、「もしも」に備える心構えも大きな成果です。発表では、地域の課題に真剣に向き合う姿勢が印象的でした。人口減少や高齢化などの現実をふまえつつ、自分たちにできることを考え行動に移す姿に、大島学園らしさが表れていました。すべてを完璧に実現するのは難しいかもしれませんが、意見を交わし協力すること自体が大切であり、それが地域とのつながりを深めていると感じます。後期の全島運動会には、私も大学の学生と参加予定で、皆さんとの活動を楽しみにしています。

また、Tシャツ制作やキャラクター「あまにゃん」の活用といった学校のブランド力向上の取り組みも素晴らしく、今後の展開に期待しています。「ふるさと愛学習」も、大島学園ならではの優れたカリキュラムで、地域・保護者との連携がとても良好です。前期は地域活性化、後期は防災・福祉と、学年に応じたテーマで学びを深めている点も評価できます。

先生方も「学びをデザインする」方針のもと授業改善に取り組まれており、教科と地域活動が有機的につながっていると感じました。こうした教育活動が常に進化し、地域や保護者の支えによって実現していることに、大島学園の教育の力強さを感じました。今後もこの学びを深め、地域行事などで皆さんが力を発揮されることを期待しています。素晴らしい発表をありがとうございました。

#### 4. 閉会行事

##### 【山崎教頭】

それでは閉会行事に移ります。宗像市教育委員会指導主事の小島様、お願いいたします。

##### 【小島指導主事 宗像市教育委員会】

はじめに、先日の大雨により大島地域でも多くの被害があったと伺っております。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と、皆様のご安全をお祈り申し上げます。改めまして、県教育委員会より参りました小島と申します。大島に心を寄せる“小さい島の小島”として、今回もこの会に参加させていただきましたこと、大変嬉しく思います。本日は皆さんの取り組みや会の進行を通して、感激したことをいくつか共有させていただきたいと思います。前回もお話しましたが、「小中一貫コミュニティ・スクール」とは、学校・家庭・地域が共に当事者となって、大島を愛し、自ら考え、責任を持って行動する子どもを育てていくための仕組みです。しかし、今日の会に参加して、私は一つ間違っていたことに気づきました。子どもたちもすでに立派な“当事者”になっている、ということです。この学園、この島をより良くしようと本気で取り組んでいる姿に、心から感動しました。

特に印象的だったのは、児童会長の来飛さんの姿勢です。地域と一緒に何かをやりたいという強い思いから、自ら先生にお願いをし、計画を立て、この会につなげていったという話を聞いて、胸が熱くなりました。そして、実際に今日のこの光景を見て、本人もまた多くを感じ取ってくれていることと思います。また、私がAグループで意見を伺っていた際、PTA 副会長の西永さんが「なぜ地域の人と一緒にやりたいのか」と問いかけたところ、来飛さんは「島の人に元気になってほしい。長生きしてほしい」と答えました。その言葉には、子どもたちの本気の思いが込められており、思わず鳥肌が立ちました。こうした思いがあるからこそ、ただ「子どもが参加しています」ではなく、「思いのある子どもたちが本気で関わっている」ことが、この会の価値を高めているのだと強く感じました。地域の皆さんの声も心に残りました。例えば、浜辺ラボの平川さんや、西地区区長の丸井さんが「難しいことはいい、挨拶が大事」とおっしゃっていたこと。挨拶一つで人と人がつながれるというシンプルで温かい考えに、改めて基本の大切さを感じました。また、丸井さんがアイデアをたくさん出しながら「いいヒントもらったね、あとは任せたよ。」と会長に言った場面も印象的でした。大人たちが一方的に指導するのではなく、子どもたちに任せ、信じて背中を押す。まさに、自分で考え責任を持って行動する子どもを、地域全体で育てている姿勢がここにありました。

このような活動の積み重ねが、大島学園の素晴らしさを形づくっているのだと実感しました。私はこの学校、この地域、そして皆さんが大好きです。自信を持って、胸を張っていただきたいと思います。そして、この取り組みを他の学校にも広げていくことが、私の役目だとも感じています。本日は、玄海東小学校や日の里学園の先生方、コーディネーターの先生方もお越しいただいています。ぜひ、ここでの素晴らしい取り組みを他地域でも生かしていけるよう、私自身、宿題として持ち帰りたいと思います。また、今回の会で終わりではなく、ここから次へとつなげていくことが大切です。「これで終わり」ではなく、「これを受けて次にどうするか。」という視点で、子どもたち自身が次の行動を考えていくことが求められます。生徒会の皆さんが中心となって取り組んできた今回の活動が、来年以降も続いていくように、仕組みとして定着させることが重要です。そして、先生方がその背中をしっかりと支えてくださると信じています。私も小さな力ではありますが、皆さんと共にこれからも応援し続けたいと思っています。本当に素晴らしい会をありがとうございました。またぜひ参加させてください。以上です。

##### 【山崎教頭】

ありがとうございました。次回は10月28日（火）に第4回学園運営協議会を開催します。以上をもちまして、第3回大島学園学園運営協議会を終了します。ありがとうございました。お疲れ様でした。